

09. 社会医学研究部

部長：浦山ケビン

【ミッション・目標】

社会医学研究部は、複数の疫学研究手法を用いて、胎児期から幼少期の環境が小児及び成人期の健康に与える影響を調べています。主に、小児期や子育て家庭における各種疾患や社会的困難の原因を追究し、研究から得られた成果から、安心して妊娠・子育てできる環境を社会に提案することを目標としています。

当研究部の構成員は疫学、統計学、社会学、遺伝学、精神保健、栄養学、小児科学、周産期医学、子どもの認知・行動および社会情緒発達等の幅広い専門知識を有しています。このため、全国の大規模な統計情報や医学情報データベース等を活用した研究から、地域レベルでのリクルート・試料採取を行うフィールドワークや記述的な研究まで、多岐にわたる研究手法を用いています。

また、2016年より6NCプロジェクトとしての電子的臨床研究基盤整備事業を、研究所・臨床研究センター・病院・情報管理部の施設横断型組織として運営しております。

疫学研究とは、様々なコラボレーションを通して、より質の高いそして代表性の高い研究を遂行していけるものだと、私たちは信じています。

【研究プロジェクト】

[電子的臨床研究基盤整備事業]

- データ集積管理システム REDCap の導入
- 院内サービス提供開始にむけた基盤整備
- 6NC 連携「健康寿命延伸をめざした疾患横断的予防指針」の作成
- 6NC 運用コホートのプール解析の実施

[小児血液がんの発生に関する研究]

- 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（日本人対象）
- 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（国際メタ解析）
- 子どもの血液がんの環境・遺伝的要因に関する疫学研究（日本人対象）
- 胎児期の母体感染症が小児白血病の発症に及ぼす影響に関する疫学研究（国際プール解析）

[小児血液がんの臨床成績に関する研究]

- 小児白血病の治療反応性に関わる遺伝素因に関する研究

(ゲノムワイド関連解析および細胞株を用いた *in vitro* での解析)

[小児がん経験者の前向きコホート研究]

- 小児がん経験者の医学的・心理社会的晩期合併症に関する研究「NCCHD Lifetime Cohort」
- 小児がん経験者の晩期合併症を予測するバイオマーカーの探索
- 小児がん経験者の心理社会的課題に関する研究

[出生コホート連携事業]

- 国内6出生コホート（北海道コホート、東北三世代コホート、BOSHIコホート、浜松コホート、千葉コホート、成育母子コホート）のデータ共有基盤の作成とメタ解析の実施

[周産期関連データベース連携事業]

- 日本産科婦人科学会（周産期登録、ART登録）、新生児臨床研究ネットワークの3データベースの連結に向けた連携の実施

[既存の大規模データの二次解析研究]

- メタデータ（大規模コホート、検診情報のメタ解析、人口動態統計）を用いた低出生体重増加が長期予後（最終身長、妊娠時合併症、成人後生活習慣病）に与える影響の解析研究
- レセプト情報を用いた小児期の各種疾病（呼吸器感染症、急性胃腸炎、川崎病等）に対する各種治療法の効果に関する比較分析
- 人口動態統計を用いた各種疾病（18 trisomy, 21 trisomy, 脳性麻痺）を持つ児の死亡年齢、死因および生前に受けた治療に関する分析
- 人口動態統計を用いた母体保護法における生存限界の改正の影響に関する研究
- エコチルデータを用いた妊娠中の食事状況（つわりの程度、妊娠体重増加量、タンパク質摂取量）が子どもの発育に与える影響に関する研究

[新生児医療の生命倫理に関する疫学研究]

- 10カ国のNICUへの在胎22-24週出生への蘇生提供に関する調査研究
- 10カ国のNICUへの重症児への終末期医療提供に関する調査研究

[適切な乳幼児身体成長曲線作成に関する研究]

- 令和3年度実施の乳幼児身体発育調査の調査票改訂のための基礎資料と要望書の作成（日本小児内分泌学会と共同作成）

[新型コロナウイルスに関連した疫学研究]

- 新型コロナ流行下における子どもたちの全国調査（コロナ×こどもアンケート）
- 新型コロナ流行下における親子の食生活・栄養に関する全国調査

[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

- 学校を介した介入の効果に関するレビュー
- 乳児がいる家庭の父親と母親のメンタルヘルスに関する研究
- 親子関係と子どもの長時間のインターネット使用との関係に関する研究
- 三歳以上で未就園の子どもたちの社会・身体的背景因子に関する研究
- 乳児期の親のメンタルヘルスの状況に関する研究
- 母親の幼少期の逆境体験が母親の現在のメンタルヘルスおよび子どものメンタルヘルスに与える影響

[子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 不妊治療を経験する女性のメンタルヘルスと QOL に関する追跡調査の実施
- 高度不妊治療を始めたばかりの女性のメンタルヘルスに関する量的分析
- 高度不妊治療を始めた女性が感じている悩みや苦しみに関する量的・質的研究

[東京都足立区実施の子どもの健康と生活実態調査に関連する研究]

- 東京都足立区における子どもの健康と生活実態調査に参加している子どもおよび家庭の特徴
- マルトリートメントを受けた経験とその後のメンタルヘルスとの関連の研究

[アプリ「ルナルナ」を用いた女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究]

- 月経困難症・PMS、性交頻度・妊孕性に影響を与える社会心理的要因分析
- 性交頻度・妊孕性に影響を与える社会心理的要因の前向きコホート研究

[愛着関連障害診断の症例検討および被虐待乳幼児とその親のオキシトシン・バズプレシン濃度及びそれら受容体の遺伝子多型についての研究]

- 被虐待児とその親はストレスホルモンレベルが高いかを調べる研究

[動機付け面接による認知変容に関する研究]

- 面接法の違いにより行動変容への認知が異なるかを調べる研究

[成育母子コホート研究]

- 3歳までのデータのクリーニングおよび集計
- Cohort profile paper の執筆

- 3歳時の食事からの微量元素の摂取と血中のバイオマーカーの相関に関する横断研究
- 6歳児の親子の食事摂取量・食生活・ボディイメージと関連因子に関する前向き研究
- 各種解析研究（出産後のメンタル状態が子どもの食生活に与える影響に関する研究、帝王切開が乳幼児の肥満に与える影響に関する研究、等）

[世田谷区における小児肥満研究]

- 小児生活習慣病予防検診のデータ入力および集計
- 父親に重点を置いた HOP-CHAN STUDY（ホップちゃんスタディ）父子介入プログラムの実施

[川崎病に関する研究]

- 川崎病の治療反応性に関わる臨床および遺伝的情報に関する研究
- 川崎病に関連する遺伝子解析に関する研究（川崎病遺伝コンソーシアム）

[成育医療研究センター病院との共同研究]

- 小児がん経験者の医学的・心理社会的晩期合併症に関する研究「NCCHD Lifetime Cohort」（小児がんセンターとの共同研究）
- 乳児消化管アレルギーの全国調査データを用いた、疾患分類表および予後予測因子の解析（免疫アレルギー科との共同研究）
- 両側肺動脈における至適絞扼サイズの決定とその介入効果に関する研究（心臓血管外科との共同研究）
- 日産婦周産期委員会データベースを用いた各種分析研究（双胎、胎児性別、前置胎盤の有無、などの妊娠予後への影響）（産科との共同研究）
- NDB を用いた小児への抗生剤処方量、処方内容や病名ごとの抗生剤使用方法に関する解析（感染症科との共同研究）
- アプリ「ルナルナ」データを用いた女性の月経周期に影響を与える因子に関する研究（研究所分子内分泌研究部との共同研究）
- 学校健診情報を用いた、肥満が第二次性徴における身長変化に与える影響に関する研究
- 長期入院中の子どもたちの生活の質におけるアバターの効果に関する検討
- 川崎病に関連する遺伝子解析に関する研究（川崎病遺伝コンソーシアム）
- プレコンセプション尺度を用いたヘルスリテラシーと心理社会的要因との関連に関する研究
- 不妊治療を受ける女性を対象とした追跡調査（不妊治療科との共同研究）

【研究体制】

部長：浦山ケビン

室長：加藤承彦（行動科学研究室）

室長：森崎菜穂（ライフコース疫学研究室）

研究員：三瓶舞紀子、半谷まゆみ、田中久子、Aurelie-Piedvache、小林しのぶ、岡坂昌子、

共同研究員：小川浩平、鈴木朋、本多由紀子、小林実夏、可知悠子、大久保祐輔、安藤恵美子、原田正平、伊藤淳、藤原武男、大西香世、谷川朋幸、市瀬雄一、青木康太郎、山岡祐衣、阿部恵理、越智真奈美、友利久哉、宮山千春、澤田なおみ、高畑香織、左勝則

研究補助員：長谷川文香、茂木成美、明田美和子、小林早苗

研究補助者：中野弘美、三浦智子

【国際共同研究】

1. Childhood Leukemia International Consortium (CLIC)：世界の 15 以上の小児白血病疫学研究グループとの共同研究：小児白血病の環境・遺伝的要因に関するプール解析やメタ解析
2. International Childhood Cancer Cohort Consortium (I4C)：世界の 10 の大規模母子コホート（日本のエコチル調査を含む）との共同研究：小児がんの環境要因に関するプール解析
3. カリフォルニア大学サンディエゴ校：冠動脈病変合併川崎病患者に対するアトロバスタチンの安全性と薬物動態を検討する多施設共同第 I/IIa 相試験
4. The International Network for Evaluation of Outcomes (iNeo):新生児医療ネットワーク 10 カ国の共同研究：新生児医療の質と新生児の予後との関連分析研究
5. Preterm Birth International Collaborative (PREBIC)（日米欧加豪 30 カ国の周産期疫学者グループ）：人口動態統計を用いた、周産期予後の要因に関する国際比較研究
6. World Health Organization：2011-2012 年に日本を含む 21 カ国にて行った出生調査情報の二次解析
7. Harvard School of Public Health (Prof. S V Subramanian)：成人期身長の小児期の環境要因の指標としての使用に関する研究
8. Global Burden of Diseases Collaborative (GBDs): 幼少期曝露の成人期の健康に与える影響に関する研究
9. University of Leicester (Lecturer Lucy Smith)：先進国 11 カ国における人口動態統計を用いた生存限界の疫学研究の実施
10. University of Oxford (Prof Cathy Creswell 他): 新型コロナウイルスの流行がこどもの生活環境および精神面に与えている影響に関する前向き研究の国際比較研究

【国内共同研究】

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院 小児科（高木正稔、准教授）：エクソームシーケンスを用いた小児急性リンパ性白血病の発症に関わる遺伝子の探索（学会発表済み）
2. 北里大学 薬学部（田中庸一、助教）：小児急性リンパ性白血病患者における 6-メルカプトプリン毒性に関わる遺伝素因の探索（ゲノムワイド関連解析）
3. 山梨大学医学部附属病院小児科（犬飼岳史、教授）：白血病細胞株を用いた治療反応性に関わる遺伝素因に関する研究
4. 京都大学 ゲノム医学センター（松田文彦、センター長）：小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（ゲノムワイド関連解析）（Urayama et al., *Scientific Reports*, 2018）
5. 東京医科大学 低侵襲医療開発総合センター（杉本昌弘 教授）：小児血液悪性腫瘍治療後の内分泌代謝異常の発生リスクに関連する代謝生産物変化の同定
6. 聖路加国際大学 大学院公衆衛生学研究科（高橋理 教授）：日本人一般集団における健康日誌疫学調査研究（Fukui et al., *Journal of Community Health*, 2017; Lee et al., *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2018）
7. 聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センター（木村武志）：ガスクロマトグラフ質量分析法を用いたメタボローム解析による非アルコール性脂肪性肝疾患の診断モデル開発（学会発表済み）
8. 聖路加国際病院 小児科（真部淳 医長）：小児がん患者における心理学的・精神医学的症状に関連する因子の調査研究（Maeda et al., *Journal of Pediatrics and Child Health*, 2017）
9. 東北大学 医学系研究科（仁尾 正記 教授）：日本胆道閉鎖症研究会:観察研究に基づく予後関連因子の評価
10. 千葉大学大学院公衆衛生学分野（尾内善広 准教授）：川崎病の治療反応性・重症化に関連する遺伝素因の探索とそれに臨床的所見を加えた治療反応性予測モデルの開発
11. 東京大学医学系研究科(佐々木敏教授)、東邦大学社会医学講座衛生学分野（朝倉敬子准教授）：質問票を用いた子どもの栄養摂取量測定手法に関する研究
12. 京都大学医学系研究科(中山健夫教授)：周産期予後の母体および地域要因に関する研究
13. 筑波大学医学系研究科（田宮菜奈子教授）：乳児死亡の生物学的因子および社会因子に関する研究
14. 京都大学医学系研究科(中山健夫教授)：21 trisomy の患者の予後に関する研究
15. 九州大学（諸隈誠一教授）：エコチル調査を用いた疫学研究（複数）
16. 国立がんセンター（津金センター長 他）：NCC 所有コホート（JPHC-NEXT）を用いた、幼少期曝露の成人期予後に与える影響に関する研究
17. 神奈川県立医療センター（柴崎医師）：新生児 HIE 患者における MRI 所見の長期予後への活用に関する研究
18. 東京医科歯科大学医学部（藤原武男教授）：東京都足立区における子どもの健康と生活

実態調査に関する研究

19. 国立社会保障・人口問題研究所（福田節也室長）：男性の育児参加と出生との関係に関する研究
20. 駒澤大学（増田幹人准教授）：子どもを持つことへの満足度に関する研究
21. 慶應義塾大学こどもの機会均等研究センター（赤林英夫教授）：子どもの健康と発達に関する研究
22. 東京都立大学子ども・若者貧困研究センター（阿部彩教授）：子どもの貧困の影響に関する研究
23. 国立青少年教育機構（青木康太郎研究員）：「インターネット社会の親子関係に関する意識調査」に関する研究協力
24. 国立成育医療研究センター政策科学研究部（竹原健二室長）：父親の育児参加に関する研究
25. 株式会社 MTI：女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究：株式会社エムティーアイの月経日や基礎体温、性交日を記録するアプリ「ルナルナ」ビッグデータを用いた、同社と分子内分泌研究部、不妊診療科、周産期・母性診療センター母性内科との共同研究
26. 城西大学（大野佳子教授）：動機づけ面接の内容と構造は禁煙継続の有無に影響するか
27. 東京医科歯科大学（藤原武男教授）：「乳幼児揺さぶられ症候群の予防研究」への協力
28. 山梨大学（山縣然太郎教授）：甲州（旧塩山）プロジェクト（母子保健縦断研究）から、地域のニーズに応える疫学研究対人保健サービスに対する評価法に関する研究への協力
29. 東京医科歯科大学（山岡結衣助教）：新型コロナ流行期における子どもの生活習慣と親子関係の変化に関するコロナ×こどもアンケートの解析と国際比較研究
30. 国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター（細澤麻里子主任研究員）：新型コロナ流行期における子どもの心身の健康に与える影響に関するコロナ×こどもアンケートの解析と国際比較
31. 城西大学（大野佳子教授）：新型コロナウイルス感染症流行下における子どものメンタルヘルスへの影響に関するこどものコロナ×こどもアンケートの自由記述に関する二次解析研究
32. 北海道情報大学（酒井雅裕教授）：新型コロナウイルス感染症による社会的な紐帯の変容に関するコロナ×こどもアンケートの二次解析研究

【研究の概要】**[電子的臨床研究基盤整備事業]**

- Vanderbilt 大学が開発した開発したデータ集積管理システム REDCap を当センター全職員が使用できるように本大学と契約を締結（五十嵐理事長名）
- 病院臨床研究センター・情報管理部と共同で、REDCap システムの基盤整備を行い、2020年10月より院内にサービス提供開始、2020年12月現在8プロジェクトを運用している
- 成育母子コホートのデータマネジメント業務を行い、0-3歳までの収集データのクリーニングと整理を行い、院内各研究者が用いることができるように整備を行なった
- 6ナショナルセンターで「健康寿命延伸をめざした疾患横断的予防指針」の素案を作成した（2021年 理事長会の承認を経た後に刊行予定）
- 6ナショナルセンターで運用しているコホートのデータ共有基盤を作成し、喫煙・飲酒・がん家族歴に関するプール解析を開始した
- 国立ガンセンターの JPHC-NEXT コホートを解析し、出生体重が低いと妊娠合併症リスクが高くなることを示した（Ogawa, Morisaki, Piedvache, Urayama et al, J Epidemiology 2021）

[小児血液がんの発生に関する研究]

- 東京小児がん研究グループ（TCCSG）および日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）と協力して、ゲノムワイド関連解析により小児白血病の発症リスクや予後に関連する遺伝子多型の同定を行っている。
- 国際メタ・ゲノムワイド関連解析により、小児白血病の発症リスクに関連する遺伝子多型の同定を行っている。
- 国内で症例対照研究を実施し、胎児期から幼少期の環境要因や遺伝素因がどのように相互作用して小児血液がんの発症に関与しているかを調べている。
- 国際プール解析により、胎児期の母体感染症が小児白血病の発症に及ぼす影響について調べている。

[小児血液がんの臨床成績に関する研究]

- 小児白血病の治療反応性や予後に関連する遺伝子多型を探索している。病態生理の理解や個別化医療の推進を目指している。
- 日本人白血病細胞株（共同研究者の山梨大学犬飼教授が樹立・保有）における抗がん剤感受性と遺伝子多型の関連を解析している。難治性白血病の治療体制メカニズムを解明することを目指している。

[小児がん経験者に関する研究]

- 小児白血病の治療反応性や予後に関連する遺伝子多型を探索している。病態生理の理解や個別化医療の推進を目指している。
- 日本人白血病細胞株（共同研究者の山梨大学犬飼教授が樹立・保有）における抗がん剤感受性と遺伝子多型の関連を解析している。難治性白血病の治療体制メカニズムを解明することを目指している。
- 小児がん経験者の心理社会的課題を探索している。これらの課題の共有により、小児がん経験者の心理社会的 QOL 向上を目指している。

[出生コホート連携事業]

- 国内6出生コホート（北海道コホート、東北三世代コホート、BOSHI コホート、浜松コホート、千葉コホート、成育母子コホート）のデータ共有基盤を作成し、実務者会議を設定、運用した。メタ解析テーマ（能動喫煙と能動的喫煙と妊娠高血圧症候群の関係）を設定し、各コホートに個別解析の指示を行った。

[周産期関連データベース連携事業]

- 日本産科婦人科学会（周産期登録、ART 登録）、新生児臨床研究ネットワークの3データベースの担当者で構成された周産期関連データベース連携検討会議を設定、運用した。データベース連結のための妥当性研究を開始した。

[既存の大規模データの二次解析研究]

- レセプト情報を用いて、川崎病に対するステロイド治療法のガイドライン変更の影響、および治療法の効果・費用に関する比較分析を行った（Okubo, Morisaki et al, *Frontiers in Pediatrics*, 2020）
- 日本産科婦人科学会周産期登録を用いて、胎児性別が妊娠合併症や出産予後に与える影響を調べた（Ogawa, Morisaki et al, *Scientific Reports* 2020）
- 日本産科婦人科学会 ART 登録を用いて、凍結胚の処理方法が妊娠合併症に与える影響を示した（Morisaki et al, *Human Reproduction* 2019）
- 新生児臨床研究レジストリを用いて、妊娠糖尿病の有無が極低出生体重児の予後に与える影響を調べた（Morisaki et al, *BMJ Pediatrics Open* 2019）
- 人口動態統計を用いた各種疾病（18 trisomy, 21 trisomy）を持つ児の死亡年齢、死因および生前に受けた治療に関する分析を行った（Motegi, Morisaki et al, *Pediatrics Int* 2020; Morisaki et al, *Neonatology* 2021）
- 人口動態統計を用いた母体保護法における生存限界の改正の影響に関する研究を行った（投稿準備中）
- エコチルデータを用いた妊娠中の食事状況（つわりの程度、妊娠体重増加量）が子ども

もの発育に与える影響に関する研究を行った (revision 中、投稿準備中)

- 全国の NDB データベースを用いて、全国の小児患者への外来経口抗生剤の処方状況を報告した (Morisaki et al, Journal of Infection and Chemotherapy. 2019, Morisaki et al, Journal of Infection and Chemotherapy. 2019, Morisaki et al, J Infect Chemother. 2019)
- 学校健診情報を用いて、肥満が第二次性徴における身長変化に与える影響を示した (Morisaki, Piedvache et al, Scientific Reports 2020)
- アプリ「パパッと育児」情報を用いて、乳児身長増加の季節変動を調べた (Morisaki, Urayama et al, NPT Digit Med 2020)
- 健やか親子21の調査票情報を用いて、自治体でチェックリストを配布すると乳幼児の保護者への事故防止意識に繋がることを示した (Sampei, Kato, Piedvache, Morisaki, Urayama et al, J Epidemiology 2019)

[新生児医療の生命倫理に関する研究]

- 10カ国のNICUでの終末期医療の違いを調査した (Morisaki et al, Acta Pediatrics 2020)
- 10カ国のNICUへの在胎22-24週出生への蘇生提供に関する調査研究 (投稿準備中)

[適切な乳幼児身体成長曲線作成に関する研究]

- 海外および過去調査票を元に、令和3年度実施の乳幼児身体発育調査の調査票改訂のための要望書を日本小児内分泌学会とともに作成し厚労省に提出した

[新型コロナウイルスに関連した疫学研究]

- コロナ×こどもアンケート調査 (コロナ×こども本部)
社会医学研究部・こころの診療部を中心とした研究者・医師有志が集まり、コロナ×こども本部を結成。「コロナ×こどもアンケート」調査 (オンライン匿名調査) を通して、新型コロナ流行期のこどもと保護者の生活と健康の現状を明らかにすること、問題の早期発見や予防・対策に役立てること、こどもたちと保護者の安全・安心につながるような具体的な情報 (相談窓口や利用可能な情報源など) を発信している

【実施プロジェクト】

1. コロナ×こどもアンケートの実施
 2. アンケートの集計・分析・報告
 3. こどもたちの問題の早期発見や予防・対策のための、外部組織との連携
 4. 「コロナ×こども本部」LINE公式アカウントの運営
 5. アンケート結果に基づいた社会への提言
 6. こどもたちの意見を反映したアンケートの作成 (こども会議)
- 新型コロナ流行下における子どもたちの生活や心身の健康のインターネット調査を行った (投稿中)

- 第1回コロナ×こどもアンケート結果を用いて、2020年4-5月の緊急事態宣言下での医療機関の受診控えに関連する因子を示した（投稿中）
- 住民基本台帳を用いて全国50自治体の小5・中2、3,000名を対象に新型コロナ流行下における子どもの食事を含む生活やメンタルヘルスの変化を調査した。

[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

- 親子関係が良好でない小学校高学年児童および中学校生徒は、長時間のインターネット使用をする傾向にあることを示した（公衆衛生学雑誌に掲載）
- 三歳以上で未就園の子どもには、どのような社会・身体的背景因子が見られるのかを分析した（*Journal of Epidemiology*に掲載）
- 乳児がいる世帯において、メンタルの不調を経験している父親が一定の割合でいることを全国データを用いて示した（*Scientific Reports*に掲載）
- 学校を介した介入の効果に関する研究の知見をまとめた（*Journal of School Health*に掲載）
- 全国データを用いて、シングルマザーのメンタルヘルスの不調の割合を示した（現在、*Journal of Affective Disorders*でRevision中）
- 幼少期の親の離婚を経験した母親は、現在、メンタルヘルスの不調を経験しやすく、またその子どももメンタルヘルスの不調を経験しやすいことを示した（現在投稿準備中）
- 父親の育児参加の効果に関する国内の研究の知見をまとめた（現在、投稿準備中）

[子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 高度不妊治療を始めた女性のメンタルの不調の割合やQOLの状況を示した（現在、*Scientific Reports*でRevision中）
- 高度不妊治療を始めた女性の治療に対する思いを分析し、治療のどのような側面が負担になっているのかを分析した（現在、投稿準備中）
- 不妊治療によって子どもを出産した母親は、自然妊娠の母親に比べて児童虐待やボンディング障害（子どもを可愛いと思えない）が生じやすいかを検証した（投稿準備中）

[東京都足立区実施の子どもの健康と生活実態調査に関連する研究]

- 東京都足立区における子どもの健康と生活実態調査に参加している子どもおよび家庭にどのような特徴が見られるかを記述した（*Journal of Epidemiology*に掲載）
- マルトリートメントを受けた経験とその後のメンタルヘルスとの関連が見られるのかを分析した（現在、*American Journal of Epidemiology*に投稿中）

[女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究]

- 株式会社エムティーアイの月経日や基礎体温、性交日を記録するアプリ「ルナルナ」ピ

ックデータを用いた、同社と分子内分泌研究部、不妊診療科、周産期・母性診療センター母性内科との共同研究で年齢ごとの基礎体温・月経周期を示した (Sampei, Morisaki et al, Obstetrics and Gynecology 2020)

- 約2万人の女性を対象に、メンタルヘルスや労働環境や家庭環境、仕事と家庭のバランスなどのような社会心理的要因が性交頻度・妊孕性に影響を与えるのかを調べる前向きコホートをを行った

[愛着関連障害診断の症例検討および被虐待乳幼児とその親のオキシトシン・バソプレシン濃度及びそれら受容体の遺伝子多型についての研究]

- 目白大学と小児血液・腫瘍研究部との共同研究
- 被虐待経験のある就学前の子ども及びその親は、被虐待経験のない子ども及びその親に比べてオキシトシン・バソプレッシン等のストレスホルモンの濃度が高いかを調べる研究

[動機付け面接による認知変容に関する研究]

- 動機付け面接法を用いた面接と一般の面接とを比べた時に行動変容に対する認知変容の程度が異なるかを検証した (投稿準備中)

[成育母子コホート研究]

- 3歳までの血液・検診・質問票等のデータ29ファイルをクリーニングし、解析用データとして固定する作業をした。さらに、その一部のデータについて集計した。
- 3歳までのデータを固定することができたので、記述統計をまとめ、Cohort profile paperを執筆している。
- 母体貧血と産後うつとの関連を示した (Ogawa, Morisaki et al Int J Obst Gyn 2020)
- 3歳児における魚介類摂取と血中オメガ3, 6脂肪酸、および血中コレステロール値の相関を示した (Ando, Morisaki et al, Public Health Nutrition 2020)

[世田谷区における小児肥満研究]

- 2016年から毎年、世田谷区における小児生活習慣病予防検診にて収集される問診票と質問票のデータ入力を行い、血液データと結合し、集計している。さらに、集計結果をまとめ、世田谷区で年1回開催される専門委員会で報告している。また、検診データを解析し、論文にまとめ、Pediatrics Internationalで発表予定である。
- 2018年度より、世田谷区学校保健委員会/専門委員/生活習慣病予防委員会の協力機関として正式に認められ、毎年、専門委員会に参加している。
- 2015~2018年度の小児生活習慣病予防検診対象者にリクルートし、父親に重点を置いた父子介入プログラムを実施した。2018年度は3家族の参加であり、2019年6月

をもって介入を終了したため、データ解析および論文執筆中である。

[川崎病に関する研究]

- 川崎病と遺伝子の関連について、様々なアプローチからの研究推進を可能とするための体制を整備し、全国研究参加施設から収集を進めている（川崎病遺伝コンソーシアム）。
- 川崎病の治療反応性に要因を明らかにするために、対象症例の臨床的情報と遺伝的情報の分析を行っている。

【2019 年研究業績】

1. 誌上発表

(1) 英文原著

1. Kinoshita N, Morisaki N, Okubo Y, Uda K, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I*: Nationwide study of outpatient oral antimicrobial utilization patterns for children in Japan (2013-2016). *Journal of Infection and Chemotherapy*. 2019 Jan;25(1):22-27.
2. Okubo Y*, Miyairi I, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Urayama K, Yasunaga H: Recent prescription patterns for children with acute infectious diarrhea. *Journal of Pediatric Gastroenterology & Nutrition*. 2019 Jan;68(1):13-16.
3. Ogawa K*, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara T: Reply to Shakira et al: Validation of a food frequency questionnaire for Japanese pregnant women in mid to late pregnancy. *European Journal of Clinical Nutrition*. 2019 Jan;73(1):155-156.
4. Ogawa K*, Matsushima S, Urayama KY, Kikuchi N, Nakamura N, Tanigaki S, Sago H, Sato S, Saito S, Morisaki N: Association between adolescent pregnancy and adverse birth outcomes, a multicenter cross sectional Japanese study. *Scientific Reports*. 2019 Feb 20;9(1):2365.
5. Uda K, Okubo Y, Matsushima T, Sadahira C, Kono T, Hataya H. Multifocal Infantile Hemangioma. *The Journal of Pediatrics*. 2019 Jul;210:238-238.e1.
6. Okubo Y, Hayakawa I, Nariai H, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent practice patterns in diagnostic procedures anticonvulsants, and antibiotics for children hospitalized with febrile seizure. *Seizure*. 2019 Apr;67:52-56.
7. Gai. R., Fuji, H., Metoki, H., Ehara, A., Kato, T., Ebara, H., Nishida, T., Kobayashi, G., & Mori, R.: Perspectives of value-based policy making in child health care in Japan. *Annals of Translational Medicine*. 2019;Mar;7(6):126.
8. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Okubo Y, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I*: Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 2019 May 23;72(3):149-159.
9. Hitaka D*, Morisaki N, Piedvache AB, Miyazono Y, Nagafuji M, Takeuchi S, Kajikawa D, Kanai Y, Saito M, Takada H: NRNJ Neonatal outcomes of very low birthweight infants born to mothers with hyperglycaemia in pregnancy: a retrospective cohort study in Japan. *BMJ Pediatrics Open*. 2019;3:e000491.
10. Sampei M, Kato T, Piedvache A, Morisaki N, Saito J, Akiyama Y, Shinohara R, Yamagata Z, Urayama KY, Kondo N. Municipality-level checklist to promote parental behaviors related to prevention of unintentional injury in young children: a multilevel analysis of national data. *Journal of Epidemiology*. 2019 Sep 14. doi: 10.2188/jea.JE20190079.

11. Hangai M, Urayama KY, Tanaka J, Kato K, Nishiwaki S, Koh K, Noguchi M, Kato K, Yoshida N, Sato M, Goto H, Yuza Y, Hashii Y, Atsuta Y, Mizuta S, Kato M : Allogeneic Stem Cell Transplantation for Acute Lymphoblastic Leukemia in Adolescents and Young Adults. *Biology of Blood and Marrow Transplantation*, 2019 August;25(8):1597-1602.
12. Saito K*, Kuwahara A, Ishikawa T, Morisaki N, Miyado M, Miyado K, Fukami M, Miyasaka N, Ishihara O, Irahara M, Saito H : Endometrial preparation methods for frozen-thawed embryo transfer are associated with altered risks of hypertensive disorders of pregnancy, placenta accreta, and gestational diabetes mellitus. *Human Reproduction*. 2019 Aug 1;34(8):1567-1575.
13. Okubo Y, Handa A, Belin T : Serial cross-sectional study for the association between urinary bisphenol A and paediatric obesity: Recent updates using NHANES 2003-2014. *Padiatric Obesity*. 2019 Dec;14(12):e12566.
14. Uda K, Okubo Y, Kinoshita N, Morisaki N, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I*: Nationwide survey of indications for oral antimicrobial prescription for pediatric patients from 2013 to 2016 in Japan. *Journal of Infection and Chemotherapy*. 2019 Oct;25(10):758-763.
15. Shahoor M., Lehtonen L., Lee SK., Hakansson S., Vento M., Darlow B., Adams M., Mori A., Lui K., Bassler D., Morisaki N., Modi N., Noguchi A., Kusuda S., Beltempo M., Helenius K., Isayama T., Reichman B., Shah P: Unit-level variations in healthcare professionals' availability for preterm neonates <29 weeks' gestation: An international survey. *Neonatology*. 2019;116(4):347-355.
16. Saito K, Kuwahara A, Ishikawa T, Morisaki N, Miyado M, Miyado K, Fukami M, Miyasaka N, Ishihara O, Irahara M, Saito H: Reply: Artificial cycle 'per se' or the specific protocol of endometrial preparation as responsible for obstetric complications of frozen cycle? *Human Reproduction*. 2019 Dec 1;34(12):2554-2555.
17. GBD group: Global, Regional, and National Cancer Incidence, Mortality, Years of Life Lost, Years Lived With Disability, and Disability-Adjusted Life-Years for 29 Cancer Groups, 1990 to 2017: A Systematic Analysis for the Global Burden of Disease Study. *JAMA Oncology*. 2019 Sep 27;5(12):1749-1768.
18. Sorbye IK, Vangen S, Bolumar F, Morisaki N, Gissler M, Juarez S, Nybo Andersen AM, Racape J, Small R Wood R, Urquia ML. Birthweight of babies born to migrant mothers - what role does destination country play? *SSM Population Health*. 2019 Oct 21;9:100503.
19. Sugitate R, Okubo Y, Matsui A: Duration of Pivalate-conjugated Antibiotics and Blood Glucose Levels Among Pediatric Inpatients: Causal Mediation Analyses and Systematic Review. *Pediatric Infectious Disease Journal*. 2019 Dec;38(12):1214-1218.

(3) 和文総説

1. 加藤承彦, 青木康太郎. 家庭の状況と子の長時間のインターネット使用との関連 : 『イ

ンターネット社会の親子関係に関する意識調査』を用いた分析. 公衆衛生雑誌 2019 ; 66(8): 426-437.

2. 森崎菜穂. 新生児死亡—実態, 問題点, 課題解決のために. 小児内科 2019年9月;51巻9号: 1339-1341.
3. 森崎菜穂. 医療ビッグデータとその利活用・問題点. 小児内科, 東京医学社, 2019年1月;51巻1号34-8
4. 三瓶舞紀子. 接遇に問題があるスタッフとのコミュニケーション. 主任看護師 管理・教育・業務 2019;29(2):75-83
5. 森崎菜穂. 新生児死亡—実態, 問題点, 課題解決のために. 小児内科 2019年9月;51巻9号: 1339-1341.

2. 学会発表

(1) 国際学会講演・シンポジウム・招待講演

1. Urayama KY. Challenges in Academic Public Health Research: One Japanese Perspective. Global Conference on Public Health Education in the 21st Century, ASPPH Academic Regional Meeting in Asia, Taipei, Taiwan, Sep 24, 2019

(2) 国際学会一般演題発表

1. Sakai K, Nakayama E, Urayama KY, Rougus-Pulia N, Ueda K, Takehisa T, Takehisa Y, Takahashi O. Characteristics of Sarcopenic Dysphagia: Measurement of Suprahyoid Muscle Activity Using Surface Electromyography. Dysphagia Research Society 27th Annual Meeting, San Diego, USA, Mar 7, 2019
2. Kimura T, Nojima M, Aoki Y, Hayashi K, Fujimoto H, Heike Y, Asami M, Suzuki K, Urayama KY, Matsuura M, Sato T, Masuda K. High-performance metabolomics diagnostic model for Non-alcoholic fatty liver disease (NAFLD). 15th Annual Conference of the Metabolomics Society, The Hague, Netherlands, June 23-27, 2019
3. Ebeid N and Urayama KY. Effect of maternal post-partum depression on child cognitive development in boys and girls: A systematic review. The 8th International Festival of Public Health, University of Manchester, Manchester, United Kingdom, July 18, 2019.
4. Miyamoto S, Naruto T, Morio T, Urayama KY, Manabe A, Takagi M: Association of Germline Variants of TCF3 and PAX5 with Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia Development. 62nd American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, Orlando, USA, Dec 6, 2019
5. Tanaka Y, Urayama KY, Mori M, Hasegawa D, Noguchi Y, Yanagimachi M, Keino D, Ota S, Akahane K, Hangai M, Kawaguchi T, Takagi M, Koh K, Matsuda F, Manabe A: NUDT15 is the strongest marker of predictive 6-MP tolerability on genome-wide association study for 6-MP

tolerability in Japanese childhood ALL patients. 62nd American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, Orlando, USA, Dec 6, 2019

6. Ishida H, Sarashina T, Matsumura R, Umeda K, Mitsui T, Fujita N, Tomizawa D, Urayama KY, Ishida Y, Taga T, Takagi M, Adachi S, Manabe A, Imamura T, Koh K and Shimada A on behalf of the Leukemia/Lymphoma Committee of the Japanese Society of Pediatric Hematology Oncology (JSPHO): Clinical Features of Children with Polycythemia Vera, Essential Thrombocythemia, and Primary Myelofibrosis in Japan: Retrospective Nationwide Survey. 62nd American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, Orlando, USA, Dec 6, 2019

(3) 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演

1. Urayama, KY. Genomics and Environmental Perspectives in the Epidemiology of Childhood Leukemia. 第13回近畿若手小児血液クラブ, 大阪, 2019年2月8日
2. 加濃正人, 三瓶舞紀子. 卒煙サポートセミナー卒煙相談の実際. 平成30年度第1回卒煙サポートセミナー, 神奈川, 2019年2月7日
3. 三瓶舞紀子. ハイリスク妊産婦支援における動機づけ面接. 千葉, 2019年2月19日
4. 三瓶舞紀子. 虐待予防や虐待再発予防と動機づけ面接. 児童虐待対応に係る職員研修, 横浜市, 2019年3月12日
5. 三瓶舞紀子. 子育て支援事業研修会動機付け面接の活用. 平成30年度インクルーシブ子育て支援事業, さいたま市, 2019年3月15日
6. 浦山ケビン. 疫学研究における情報学概論 ビッグデータ解析学, 東京医科歯科大学, 東京, ビッグデータ解析学, 2019年5月20日
7. 浦山ケビン. Epidemiological Efforts in Understanding Childhood Cancers. Global Health Week 2019, Medidata Solutions, Tokyo, 2019年5月23日
8. 三瓶舞紀子、高橋郁恵. 児童虐待防止領域における動機づけ面接. 新宿区, 2019年5月31日/6月14日
9. 森崎菜穂. シンポジウム1: コホート連携. 第8回日本DOHaD学会, 東京, 2019年8月9日
10. 三瓶舞紀子. 母子保健の場面における保健指導～支援者との関係を拒むものへの面接法～. 千葉県, 2019年7月9日
11. 加濃正人, 三瓶舞紀子、他. タバコ依存症治療の専門家とサポーター育成研修会. 神奈川県, 2019年9月7日
12. 三瓶舞紀子. 支援を拒否する人へのアプローチを考える. 令和元年養育支援訪問事業推進研修会. 愛知県, 2019年10月9日・30日
13. 三瓶舞紀子. 動機付け面接の活用について. インクルーシブ子育て支援事業研修会.

さいたま市, 2019年11月22日

14. 茂木成美. 座談会「超高齢社会と向き合うーダウン症候群をめぐる医療と福祉ー」.
京都大学東京オフィス, 東京, 2019年12月4日

[研究費]

公的研究費

1. 日本医療研究開発機構 クリニカル・イノベーション・ネットワーク推進支援事業 補助事業分担者 森崎菜穂 (研究班全体; 30,000 千円) 「CIN 構想の加速・推進を目指したレジストリ情報統合拠点の構築」
2. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業 研究開発分担者 森崎菜穂 (研究班全体; 130,000 千円) 「出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究」
3. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業 研究開発分担者 森崎菜穂 (研究班全体; 45,500 千円) プレコンセプションの女性に着目した疾患予防に関する総合的ケア方法の確立「妊孕能低下予防・妊合併症リスクの低減を目指したプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発。Development of a comprehensive support program for pre-concept women aiming to maintain fertility and to ensure healthy pregnancy」
4. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業)、研究分担者 森崎菜穂 (研究班全体; 27,000 千円) 「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究」
5. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究分担者 浦山ケビン (研究班全体; 3,700 千円) 「小児の急性リンパ性白血病治療における有害事象に関する遺伝子多型の解明」
6. 文部科学省科学研究費補助金、新学術領域研究 研究分担者 浦山ケビン (研究班全体; 13,910 千円) 「遺伝統計学とビッグデータの邂逅がもたらす新たながんゲノム創薬」
7. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 研究分担者 浦山ケビン (研究班全体; 5,590 千円) 「小児急性リンパ性白血病発症にかかわる遺伝学的背景の検討」
8. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 主任研究者 浦山ケビン (研究班全体; 2,730 千円) 「小児白血病の発症要因および生存者の医学的・社会的予後に関する包括的な疫学研究」
9. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 分担研究者 森崎菜穂 (当該年度直接経費; 150 千円、間接経費; 45 千円) 「低出生体重児出生予防のための妊娠期パーソナライズドアプリケーションの開発と検証」

10. 文部科学省科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究 研究代表者 森崎菜穂（研究班全体；6,240 千円）「日本の医学的・社会的背景に沿う、母体保護法のあり方についての包括的研究」
11. 文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B) 主任研究者 加藤承彦（研究班全体；4,030 千円）「保育園を通じた親への子育て支援教室実施が子どもの発達に与える効果の検証」
12. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 主任研究者 三瓶舞紀子（研究班全体；4,550 千円）「児童虐待のリスクが高い妊婦に動機づけ面接法で保健師が家庭訪問をしたら虐待は減るか」
13. 文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B) 主任研究者 大久保祐輔（研究班全体；3,900 千円）「科学的根拠に基づく小児肥満の指標のカットオフ値の探索」
14. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 分担研究者 浦山ケビン（当該年度直接経費；200 千円、間接経費；60 千円）「小児固形がん患者に対して包括的な認知機能評価と支援を行い、QOL 向上を目指す研究」

私的研究費

1. 公益財団法人神澤医学研究振興財団 研究代表者 森崎菜穂（989 千円）「日米データから算出する日本人の適切な妊娠中の食生活と体重増加量」
2. 公益財団法人 MSD 生命科学財団 研究代表者 浦山ケビン（3,000 千円）「ゲノムワイド関連解析のメタ解析と細胞株実験による分子生物学的検証を用いた、小児急性リンパ性白血病の治療薬剤耐性および急性期・晩期合併症発症機序の解明」
3. 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 研究代表者 加藤承彦（900 千円）「不妊治療中の女性のメンタルヘルスと生活の質の変化」
4. 公益財団法人武田科学財団 分担研究者 浦山ケビン（2,000 千円）「集学的アプローチによる人の性の多様性の解明」
5. 公益信託日本白血病研究基金（ザ・レジェンド特別賞助成金）、研究代表者 浦山ケビン（1,000 千円）「小児白血病発症の遺伝学的背景に関する研究」
6. 公益財団法人がんの子どもを守る会治療研究助成 研究代表者 半谷まゆみ（200 千円）「思春期・青年世代を迎えた小児がん経験者の心理社会的課題の抽出と評価」
7. 財団せせらぎ、研究助成金 研究代表者 加藤承彦（250 千円）「全国調査を用いた小学校・中学校における「不登校」の経年変化の傾向およびリスク要因の分析」
8. 前川財団、研究助成金 研究代表者 加藤承彦（990 千円）「三世同居が子どもの発達および第二子以降の出生に与える影響」

[その他]

[教育活動]

浦山ケビン

- 学校法人聖路加国際大学 公衆衛生大学院 教授
(前期 15 週間、分子疫学講座、Strategies in Academic Writing ; 後期 15 週間、MPH セミナー講座、修士論文スーパーバイザー2名)
- 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 非常勤講師
- 学校法人聖路加国際大学 臨床研究支援ユニット (SUCCESS) コンサルタント

森崎菜穂

- 東京大学大学院医学共通講義生殖発達加齢医学入門 (母子保健学) 非常勤講師
- 東京工科大学 (小児科学 (「新生児学」「事故・虐待」)) 非常勤講師
- 愛知医科大学医学部医学科 「衛生学・疫学」 招待講演

[社会貢献]

浦山ケビン

- 国際学術誌 査読 10 本以上
- 日本疫学学会 国際化推進委員会
- 日本血液がん学会 白血病・リンパ腫委員会
- International Society of Pediatric Oncology, Program Advisory Committee
- Childhood Leukemia International Consortium, Genetics Working Group, Co-leader
- Journal of Epidemiology 編集委員会、Associate Editor

加藤承彦

- 世田谷区子ども・青少年協議会委員
- 国際学術誌 査読 10 編
-

森崎菜穂

- 国際学術誌 査読 10 本以上
- 日本小児科学会 情報管理委員会委員・子どもの死亡検証制度委員会委員
- 日本産科婦人科学会 周産期委員会委員
- 世田谷区教育委員会 生活習慣病予防委員会委員

[研究所運営への貢献]

浦山ケビン

- 共同研究管理委員会

- 職員採用小委員会（政策科学研究部長選考）

森崎菜穂

- 庶務係

加藤承彦

- 倫理予備審査委員会社会医学部会
- 防災対策ワーキンググループ

【2020 年研究業績】

1. 誌上発表

(1) 英文原著

1. Ando E, Morisaki N, Asakura K, Ogawa K, Sasaki S, Horikawa R, Fujiwara T. Association between dietary intake and serum biomarkers of long-chain PUFA in Japanese preschool children. *Public Health Nutr.* 2020 Aug 4:1-11.
2. Boonpiyathad T, Tantilipikorn P, Ruxrungtham K, Pradubpongsa P, Mitthamsiri W, Piedvache A, Thantiworasit P, Sirivichayakul S, Jacquet A, Suratannon N, Chatchatee P, Morisaki N, Saito H, Sangasapaviriya A, Matsumoto K, Morita H. IL-10-producing innate lymphoid cells increased in patients with house dust mite allergic rhinitis following immunotherapy. *J Allergy Clin Immunol.* 2020 Nov 1.
3. Daida A, Yamanaka G, Tsujimoto SI, Yokoyama M, Hayashi K, Urayama KY, Ishida Y, Manabe A, Kusakawa I, Ogihara M, Kawashima H. Relationship between Sedative Antihistamines and the Duration of Febrile Seizures. *Neuropediatrics.* 2020 Apr;51(2):154-9.
4. Funaki S, Ogawa K, Ozawa N, Okamoto A, Morisaki N, Sago H. Differences in pregnancy complications and outcomes by fetal gender among Japanese women: a multicenter cross-sectional study. *Sci Rep.* 2020 Nov 2;10(1):18810.
5. Hayakawa I, Okubo Y, Nariai H, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent treatment patterns and variations for pediatric acute encephalopathy in Japan. *Brain Dev.* 2020 Jan;42(1):48-55.
6. Helenius K, Morisaki N, Kusuda S, Shah PS, Norman M, Lehtonen L, Reichman B, Darlow BA, Noguchi A, Adams M, Bassler D, Hakansson S, Isayama T, Berti E, Lee SK, Vento M, Lui K, International Network for Evaluation of Outcomes of n. Survey shows marked variations in approaches to redirection of care for critically ill very preterm infants in 11 countries. *Acta Paediatr.* 2020 Jul;109(7):1338-45.
7. Hikino K, Kobayashi S, Ota E, Mushiroda T, Urayama KY, Kobayashi T. A meta-analysis of the influence of ADRB2 genetic polymorphisms on albuterol (salbutamol) therapy in patients with asthma. *Br J Clin Pharmacol.* 2020 Sep 28.
8. Imamura Y, Kubota K, Morisaki N, Suzuki S, Oyamada M, Osuga Y. Association of Women's Health Literacy and Work Productivity among Japanese Workers: A Web-based, Nationwide Survey. *JMA J.* 2020 Jul 15;3(3):232-9.
9. James SL, Castle CD, Dingels ZV, Fox JT, Hamilton EB, Liu Z, et al. Global injury morbidity and mortality from 1990 to 2017: results from the Global Burden of Disease Study 2017. *Inj Prev.* 2020 Oct;26(Suppl 1):i96-i114.

10. Kachi Y, Kato T, Kawachi I. Socio-Economic Disparities in Early Childhood Education Enrollment: Japanese Population-Based Study. *J Epidemiol.* 2020 Mar 5;30(3):143-50.
11. Komaru Y, Takeuchi T, Suzuki L, Asano T, Urayama KY. Recurrent cardiovascular events in patients with newly diagnosed acute coronary syndrome: Influence of diabetes and its management with medication. *J Diabetes Complications.* 2020 Mar;34(3):107511.
12. Maeda Y, Ogawa K, Morisaki N, Tachibana Y, Horikawa R, Sago H. Association between perinatal anemia and postpartum depression: A prospective cohort study of Japanese women. *Int J Gynaecol Obstet.* 2020 Jan;148(1):48-52.
13. Motegi N, Morisaki N, Suto M, Tamai H, Mori R, Nakayama T. Secular trends in longevity among people with Down syndrome in Japan, 1995-2016. *Pediatr Int.* 2020 Jun 21.
14. Narumi S, Ohnuma T, Takehara K, Morisaki N, Urayama KY, Hattori T. Evaluating the seasonality of growth in infants using a mobile phone application. *NPJ Digit Med.* 2020;3:138.
15. Ochi M, Isumi A, Kato T, Doi S, Fujiwara T. Adachi Child Health Impact of Living Difficulty (A-CHILD) study: research protocol and profiles of participants. *J Epidemiol.* 2020 Mar 21.
16. Okubo Y, Fallah A, Hayakawa I, Handa A, Nariai H. Trends in hospitalization and readmission for pediatric epilepsy and underutilization of epilepsy surgery in the United States. *Seizure.* 2020 Aug;80:263-9.
17. Okubo Y, Horimukai K, Michihata N, Morita K, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent Practice Patterns and Variations in Children Hospitalized for Asthma Exacerbation in Japan. *Int Arch Allergy Immunol.* 2020;181(12):926-33.
18. Okubo Y, Horimukai K, Michihata N, Morita K, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Association between early antibiotic treatment and clinical outcomes in children hospitalized for asthma exacerbation. *J Allergy Clin Immunol.* 2020 Jun 3.
19. Okubo Y, Michihata N, Uda K, Kinoshita N, Horikoshi Y, Miyairi I. Impacts of Primary Care Physician System on Healthcare Utilization and Antibiotic Prescription: Difference-in-Differences and Causal Mediation Analyses. *Pediatr Infect Dis J.* 2020 Oct;39(10):937-42.
20. Okubo Y, Miura M, Kobayashi T, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. The Impact of Changes in Clinical Guideline on Practice Patterns and Healthcare Utilizations for Kawasaki Disease in Japan. *Front Pediatr.* 2020;8:114.
21. Okubo Y, Uda K, Kinoshita N, Horikoshi Y, Miyairi I, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. National trends in appropriate antibiotics use among pediatric inpatients with uncomplicated lower respiratory tract infections in Japan. *J Infect Chemother.* 2020 Nov;26(11):1122-8.
22. Ozawa Y, Takahashi S, Miyahara H, Hosoi K, Miura M, Morisaki N, Ito Y, Isayama T. Utilizing Video versus Direct Laryngoscopy to Intubate Simulated Newborns while Contained within the Incubator: A Randomized Crossover Study. *Am J Perinatol.* 2020 Apr;37(5):519-24.

23. Sakai K, Nakayama E, Rogus-Pulia N, Takehisa T, Takehisa Y, Urayama KY, Takahashi O. Submental Muscle Activity and Its Role in Diagnosing Sarcopenic Dysphagia. *Clin Interv Aging*. 2020;15:1991-9.
24. Shinohara T, Urayama KY, Watanabe A, Akahane K, Goi K, Huang M, Kagami K, Abe M, Sugita K, Okada Y, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Inukai T. Inherited genetic variants associated with glucocorticoid sensitivity in leukaemia cells. *J Cell Mol Med*. 2020 Oct 1.
25. Sugitate R, Okubo Y, Nariai H, Matsui A. The effects of antihistamine on the duration of the febrile seizure: A single center study with a systematic review and meta-analysis. *Brain Dev*. 2020 Feb;42(2):103-12.
26. Takehara K, Suto M, Kato T. Parental psychological distress in the postnatal period in Japan: a population-based analysis of a national cross-sectional survey. *Sci Rep*. 2020 Aug 13;10(1):13770.
27. Tanaka H, Morisaki N, Piedvache A, Harada S, Urayama KY. Trends in obesity and blood lipid abnormalities in school-age children in Japan. *Pediatr Int*. 2020 Nov 14.
28. Tatsumi T, Sampei M, Saito K, Honda Y, Okazaki Y, Arata N, Narumi K, Morisaki N, Ishikawa T, Narumi S. Age-Dependent and Seasonal Changes in Menstrual Cycle Length and Body Temperature Based on Big Data. *Obstet Gynecol*. 2020 Oct;136(4):666-74.
29. Watanabe A, Miyake K, Nordlund J, Syvanen AC, van der Weyden L, Honda H, Yamasaki N, Nagamachi A, Inaba T, Ikawa T, Urayama KY, Kiyokawa N, Ohara A, Kimura S, Kubota Y, Takita J, Goto H, Sakaguchi K, Minegishi M, Iwamoto S, Shinohara T, Kagami K, Abe M, Akahane K, Goi K, Sugita K, Inukai T. Association of aberrant ASNS imprinting with asparaginase sensitivity and chromosomal abnormality in childhood BCP-ALL. *Blood*. 2020 Nov 12;136(20):2319-33.
30. Yoshida T, Saito K, Kawamura T, Ishikawa T, Kato T, Matsubara K, Miyasaka N, Miyado M, Fukami M. Circulating steroids and mood disorders in patients with polycystic ovary syndrome. *Steroids*. 2020 Oct 22;165:108748.
31. Ishida H, Miyajima Y, Hyakuna N, Hamada S, Sarashina T, Matsumura R, Umeda K, Mitsui T, Fujita N, Tomizawa D, Urayama KY, Ishida Y, Taga T, Takagi M, Adachi S, Manabe A, Imamura T, Koh K, and Shimada A; Leukaemia/Lymphoma Committee of the Japanese Society of Paediatric Haematology Oncology (JSPHO). Clinical features of children with polycythaemia vera, essential thrombocythemia, and primary myelofibrosis in Japan: A retrospective nationwide survey. *eJHaem*. 2020, In press.
32. Ogawa K, Morisaki N, Piedvache A, Nagata C, Sago H, Urayama KY, Arima K, Nishimura K, Sakata K, Tanno K, Yamagishi K, Iso H, Yasuda N, Kato T, Saito I, Goto A, Shimazu T, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Sawada N, Tsugane S. Association between birth weight and risk of pregnancy induced hypertension and gestational diabetes in Japanese women: JPHC-NEXT study. *Journal of Epidemiology*. 2020, In press.

33. Suto M, Isayama T, Morisaki N*. Population-based analysis of secular trends in age at death in trisomy 18 syndrome in Japan from 1975 to 2016. Neonatology. 2020, In press.

(3) 和文総説

1. 森崎菜穂. こどもの発育・発達と食生活. (青木三恵子) こどもの食と栄養, 講談社, 2020年3月25日; 66 - 109
2. 森崎菜穂. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養. (青木三恵子) こどもの食と栄養, 講談社, 2020年3月25日; 162 - 206
3. 大久保祐輔・榊原裕史. そのエビデンス妥当ですか? システマティック・レビューとメタ解析から読み解く小児のかぜ薬のエビデンス, 金芳堂, 2020年(全213ページ)
4. 大久保祐輔・宇田和宏・宮入烈. Dr. KIDの小児診療 x 抗菌薬のエビデンス, 医学書院, 2020年(全256ページ)
5. 大久保祐輔. My Favorite Papers, 週刊医学界新聞, 医学書院, 第3368号(2020年4月20日)
6. 三瓶舞紀子: 家族関係のひずみから発生する虐待—こどもの生涯を守るために, 精神科看護, 精神看護出版, 2020年8月号 vol.47(通巻335号) pp4-10

2. 学会発表

(1) 国際学会講演・シンポジウム・招待講演

なし

(2) 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演

1. 森崎菜穂. シンポジウム3 「日本における最近の低出生体重の現状分析と今後の研究課題」DOHaD学説と臨床・疫学研究から見た日本の低出生体重の現状と課題. 日本衛生学会, コロナのため誌上開催, 2020年3月28日
2. 三瓶舞紀子. 面接技法を身につける～動機付け面接の技法を学ぶ～. 専門職スキルアップ研修, 横浜市鶴見区, 2020年1月7日
3. 三瓶舞紀子. 母子保健分野における動機付け面接法. 管内母子保健関係者・県北地域保健福祉関係職員研修会, 栃木県大田原市, 2020年1月20日
4. 三瓶舞紀子. 子ども虐待予防対応研修. さいたま市保健所, さいたま市中央区, 2020年1月28日
5. 三瓶舞紀子. 卒煙相談の実際 動機づけ面接法を中心に. 第2回卒煙サポートセミナー, 神奈川県横浜市, 2020年2月6日
6. 森崎菜穂. 乳幼児の身体成長曲線の作成と利用をかんがえる. 日本小児科学会, 神戸(オンライン), 2020年8月21日
7. 三瓶舞紀子. 母子保健分野における動機づけ面接法. 令和2年度栃木県母子保健研修,

栃木県宇都宮市, 2020年8月31日

8. 浦山ケビン. 小児白血病発生における遺伝素因と環境暴露の寄与. 第82回日本血液学会学術集会講演, 京都, 2020年10月9日
9. 森崎菜穂. NDBを用いた成育医療に関する研究の紹介(シンポジウム 6 ナショナルセンターが連携して行う医療政策研究と情報提供). 第79回日本公衆衛生学会総会, オンライン開催, 2020年10月21日
10. 森崎菜穂. DOHaD学説と臨床疫学研究から見た日本の低出生体重の現状(シンポジウム 日本における最近の低出生体重の現状分析と出生コホート連携の展望). 第79回日本公衆衛生学会総会, オンライン開催, 2020年10月21日
11. 半谷まゆみ. コロナ禍で子どもたちが受けている心身の影響 ~コロナ×こどもアンケートの報告~. 令和2年度 公益財団法人小児医学研究振興財団 オンデマンド市民公開講座, オンデマンド, 2020年10月26日~

[研究費]

公的研究費

1. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業 研究開発分担者 森崎菜穂(研究班全体; 130,000千円)「出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究」
2. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業 研究開発分担者 森崎菜穂(研究班全体; 45,500千円) プレコンセプションの女性に着目した疾患予防に関する総合的ケア方法の確立「妊孕能低下予防・妊合併症リスクの低減を目指したプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発。Development of a comprehensive support program for pre-concept women aiming to maintain fertility and to ensure healthy pregnancy」
3. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)、研究分担者 森崎菜穂(研究班全体; 27,000千円)「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究」
4. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業 主任研究者 森崎菜穂(研究班全体; 10,374千円)「新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究」
5. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 主任研究者 浦山ケビン(研究班全体; 2,730千円)「小児白血病の発症要因および生存者の医学的・社会的予後に関する包括的な疫学研究」
6. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 分担研究者 浦山ケビン(研究班全体; 5,590千円)「小児急性リンパ性白血病発症にかかわる遺伝学的背景の検討」

7. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 分担研究者 浦山ケビン (当該年度直接経費；350 千円、間接経費；105 千円)「小児固形がん患者に対して包括的な認知機能評価と支援を行い、QOL 向上を目指す研究」
8. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 分担研究者 森崎菜穂 (研究班全体；1,690 千円)「産科分娩施設へのアクセスと妊娠帰結に関する全国疫学研究」
9. 文部科学省科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究 研究代表者 森崎菜穂 (研究班全体；6,240 千円)「日本の医学的・社会的背景に沿う、母体保護法のあり方についての包括的研究」
10. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 分担研究者 森崎菜穂 (当該年度直接経費；150 千円、間接経費；45 千円)「低出生体重児出生予防のための妊娠期パーソナライズドアプリケーションの開発と検証」
11. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 分担研究者 森崎菜穂 (研究班全体；1,170 千円)「新生児低酸素性虚血性脳症の発達予後予測マーカーの確立」
12. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 分担研究者 森崎菜穂 (研究班全体；5,720 千円)「質的価値を小児医療提供体制に還元するモデル基盤の確立に関する研究」
13. 文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B) 主任研究者 加藤承彦 (研究班全体；4,030 千円)「保育園を通じた親への子育て支援教室実施が子どもの発達に与える効果の検証」
14. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 主任研究者 三瓶舞紀子 (研究班全体；4,550 千円)「児童虐待のリスクが高い妊婦に動機づけ面接法で保健師が家庭訪問をしたら虐待は減るか」
15. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 分担研究者 三瓶舞紀子 (研究班全体；1,170 千円)「動機づけ面接の内容と構造は禁煙継続の有無に影響するか」
16. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 主任研究者 小林しのぶ (研究班全体；4,290 千円)「臨床・遺伝的情報を用いた川崎病患者における高精度治療反応性予測モデルの開発」
17. 国立研究開発法人科学技術振興機構 J-RAPID 主任研究者 森崎菜穂 (5,500 千円)「新型コロナ流行期におけるこどもの健康・生活に関する全国調査」

私的研究費

1. 公益財団法人神澤医学研究振興財団 研究代表者 森崎菜穂 (989 千円)「日米データから算出する日本人の適切な妊娠中の食生活と体重増加量」
2. 公益財団法人 MSD 生命科学財団 研究代表者 浦山ケビン (3,000 千円)「ゲノムワイド関連解析のメタ解析と細胞株実験による分子生物学的検証を用いた、小児急性リンパ性白血病の治療薬剤耐性および急性期・晩期合併症発症機序の解明」
3. 公益信託日本白血病研究基金 (ザ・レジェンド特別賞助成金)、研究代表者 浦山ケビン (1,000 千円)「小児白血病発症の遺伝学的背景に関する研究」

4. 公益財団法人武田科学財団 分担研究者 浦山ケビン (2,000 千円) 「集学的アプローチによる人の性の多様性の解明」
5. 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 研究代表者 加藤承彦 (900 千円) 「不妊治療中の女性のメンタルヘルスと生活の質の変化」
6. 公益社団法人日本経済研究センター研究奨励金 主任研究者 加藤承彦 (950 千円) 「不妊治療 (体外受精) にのぞむ女性のメンタルヘルスと Quality of life に関する追跡調査」
7. 公益財団法人がんの子どもを守る会 主任研究者 半谷まゆみ (200 千円) 「思春期・青年世代を迎えた小児がん経験者の心理社会的課題の抽出と評価」
8. 三菱財団社会福祉事業 主任研究者 浦山ケビン (6,700 千円) 「小児がん患者・経験者の心理社会的困難共有ツールの開発-仲間を感じる・自分を想うプロジェクト-

[その他]

[教育活動]

浦山ケビン

- ・ 学校法人聖路加国際大学 公衆衛生大学院 教授
(前期 15 週間、分子疫学講座、Strategies in Academic Writing ; 後期 15 週間、MPH セミナー講座、修士論文スーパーバイザー4名)
- ・ 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 非常勤講師
- ・ 学校法人聖路加国際大学 臨床研究支援ユニット (SUCCESS) コンサルタント

森崎菜穂

- ・ 東京大学大学院医学共通講義生殖発達加齢医学入門 (母子保健学) 非常勤講師
- ・ 東京工科大学 (小児科学 (「新生児学」「事故・虐待」) 非常勤講師
- ・ 博士論文指導 2名 (東京大学医学部医学科、京都大学医学部医学科)

[社会貢献]

浦山ケビン

- ・ 国際学術誌 査読 10 本以上
- ・ 日本疫学学会 国際化推進委員会
- ・ 日本血液がん学会 白血病・リンパ腫委員会
- ・ International Society of Pediatric Oncology, Program Advisory Committee
- ・ Childhood Leukemia International Consortium, Genetics Working Group, Co-leader
- ・ Journal of Epidemiology 編集委員会、Associate Editor

森崎菜穂

- ・ 国際学術誌 査読 10 本以上
- ・ 日本小児科学会 情報管理委員会委員・子どもの死亡検証制度委員会委員

- 日本産科婦人科学会 周産期委員会委員
- 日本小児保健協会 若手による小児保健検討委員会委員
- 世田谷区教育委員会 生活習慣病予防委員会委員

加藤承彦

- 国際学術誌 査読 10 本以上

[寄稿]

- 半谷まゆみ, データから見る、新型コロナ流行による乳幼児親子への影響, 月刊「母子保健」, 2020 年 10 月号, 2020
- 半谷まゆみ, コロナ禍で学齢期のこどもたちが受けている影響, 令和 2 年度版「学校保健の動向」, 2020.11
- 半谷まゆみ, コロナ禍における未就学児親子への影響 (コロナ×こどもアンケートより), 保育と保健ニュース 11 月号, 2020.11.15.

[研究報告書]

- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 3 回コロナ×こどもアンケート調査報告書, 2020.12.01
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 1~3 回コロナ×こどもアンケート (保護者さまの声), 2020.11.12
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 3 回コロナ×こどもアンケート中間報告 (英語版), 2020.11.05
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 3 回コロナ×こどもアンケート中間報告 (おとなたちへのおねがい・アドバイス), 2020.10.28
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 3 回コロナ×こどもアンケート中間報告 2020.10.08
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 2 回コロナ×こどもアンケート (教育機関向け資料) 2020.09.08
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 2 回コロナ×こどもアンケート ((うちの子の) こんな様子が気になります!)) 2020.08.28
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 2 回コロナ×こどもアンケート調査報告書 (9 月 7 日訂正), 2020.08.18
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 2 回コロナ×こどもアンケート中間報告 (こどもたちからの伝言) 2020.07.28
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 2 回コロナ×こどもアンケート中間報告 (8 月 7 日訂正) 2020.07.07
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 第 1 回コロナ×こどもアンケート

ート調査報告書 2020.06.22

- コロナ×こども本部（社会医学研究部，こころの診療部）：第1回コロナ×こどもアンケート中間報告（保育機関向け） 2020.06.08
- コロナ×こども本部（社会医学研究部，こころの診療部）：第1回コロナ×こどもアンケート中間報告（こどものきもちもわかってよ） 2020.06.08
- コロナ×こども本部（社会医学研究部，こころの診療部）：第1回コロナ×こどもアンケート中間報告（教育機関向け） 2020.05.25
- コロナ×こども本部（社会医学研究部，こころの診療部）：第1回コロナ×こどもアンケート中間報告（英語版） 2020.05.15
- コロナ×こども本部（社会医学研究部，こころの診療部）：第1回コロナ×こどもアンケート中間報告 2020.05.12

[講演]

- 半谷まゆみ，新型コロナ禍における子どもの健康，令和2年度公益財団法人小児医学研究振興財団，オンデマンド市民公開講座， 2020.11.01

[メディア]

- 茂木成美（玉井 邦夫，玉井 浩，北畠 康司，竹内 千仙）：「ダウン症のある方たちの生活実態と、ともに生きる親の主観的幸福度に関する調査」報告書（第1報）の公表。公益財団法人日本ダウン症協会（JDS），日本ダウン症学会 厚生労働省記者クラブ， 2020年11月18日
- コロナ×こども本部（社会医学研究，こころの診療部）：コロナ×こどもアンケート調査報告，教育新聞（WEB紙面），2020.07.17, 2020.08.19, 2020.08.31, 2020.10.09, 2020.12.2.
- 半谷まゆみ，コロナ×こどもアンケート調査「長期休校で大きなストレス寄り添って」，朝日新聞, 2020.06.08
- コロナ×こども本部（社会医学研究，こころの診療部）：コロナ禍で子の7割超ストレス反応「不安に寄り添う機会を」，日本経済新聞, 2020.08.25
- 半谷まゆみ，コロナ×こどもアンケート調査「やめようコロナいじめ」，朝日新聞, 2020.09.22
- 半谷まゆみ，コロナ×こどもアンケート調査「子どもの3割秘密に」，北海道新聞, 2020.09.19
- 半谷まゆみ，コロナ×こどもアンケート調査「子どもの声に耳傾けて」，東京新聞, 2020.08.18
- 半谷まゆみ，コロナ×こどもアンケート調査「コロナ禍の子どもたち7割以上にストレス」，アエラ No.40, 2020.09.14
- 半谷まゆみ，コロナ×こどもアンケート調査「新型コロナウイルス続く不安・ストレ

ス」, さん太タイムズ (山陽新聞社), 2020.09.14

- 半谷まゆみ, コロナ×こどもアンケート調査「高まるストレス」, 産経新聞, 2020.08.30
- 半谷まゆみ, コロナ×こどもアンケート調査「コロナストレスこどもを守れ-ストレスコーピング-」, 朝日新聞, 2020.10.24.
- コロナ×こども本部: コロナ×こどもアンケート調査「コロナ禍「学校に行きたくない」3割...感染不安・行事中止が影響」, 読売新聞, 2020.12.05.
- 半谷まゆみ, コロナ×こどもアンケート調査, 168社 (上記新聞社含, 省略), 2020年9月末現在

[その他]

- コロナ×こども本部: コロナ×こどもアンケート「「未来の東京」を見据えた都政の新たな展開について～構造改革を梃子として～P21」, 東京都, 2020.08
- コロナ×こどもアンケート (社会医学研究部, こころの診療部): 「新型コロナウイルス感染症に関連した人権への配慮について」, 和歌山県橋本市ホームページ, <https://www.city.hashimoto.lg.jp/guide/sogoseisakubu/jinkendanjyosuishin/news/10780.html>, 2020.10
- コロナ×こどもアンケート: 公開報告書転載利用申請, 公立小学校3件, 医療機関3件, 自治体2件.

[プレスリリース]

- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 「コロナ×こどもアンケート」第1回調査全体報告 コロナ禍におけるこどもたちの生活と健康 ～ストレスを抱えているこどもが多く、注意が必要～, 2020.06.22
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 「コロナ×こどもアンケート」第2回調査報告 32%のこどもが、コロナになったら人に知られたくないと回答 夏休み明けは感染者への差別やいじめにも注意が必要, 2020.08.18
- コロナ×こども本部 (社会医学研究部, こころの診療部): 「コロナ×こどもアンケート」第3回調査報告 31%のこどもが、学校にきたくないことがあると回答 ～こどもたちの気持ちに寄り添ってほしい～2020.12.01

[情報発信]

- LINE 公式アカウントを利用して、週1回こどもたちと保護者の安全・安心につながるような具体的な情報を発信 (2020年11月末現在, 30回配信, 友だち数7,212人)
Line 公式アカウントタイムライン:
https://timeline.line.me/user/_daMTk_FYugT2S5QRicNXMIupvsgo5QcmtuSci8Q?utm_medium=windows&utm_source=desktop&utm_campaign=OA_Profile

[広報活動]

- コロナ×こどもアンケート（社会医学研究部，こころの診療部）：「コロナ×こどもアンケート」，協力団体（公益社団法人日本小児科学会，公益社団法人こども環境学会，日本学校ソーシャルワーク学会，公益社団法人日本小児保健協会，社会福祉法人日本保育協会，東京都，大田区教育委員会（東京都），西宮市教育委員会（兵庫県），和光市教育委員会（埼玉県），東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター（Cedep），公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン，公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン，公益財団法人ベネッセこども基金，Yahoo! きっず（ヤフー株式会社），産婦人科オンライン・小児科オンライン（株式会社 Kids Public），第一生命保険株式会社，認定 NPO 法人フローレンス，特定非営利活動法人キッズデザイン協議会，全国不登校新聞社，2020

[受賞]

1. 加藤承彦. 平成 31 年度男女共同参画・少子化関連顕彰事業優秀賞 公益社団法人程ヶ谷基金 2019 年 12 月

[研究所運営への貢献]

浦山ケビン

- 共同研究管理委員会
- 職員採用小委員会（政策科学研究部長選考）

森崎菜穂

- 庶務係
- JH データ基盤課担当

加藤承彦

- 倫理予備審査委員会社会医学部会
- 防災対策ワーキンググループ
- 実験動物委員会委員